

この皮膚病はこわい病気？

（平成24年度相生市健康大学講座講演要旨）

IHI 播磨病院 皮膚科 森田秀樹

この皮膚病は、こわい病気ですか？という質問をよくされます。この場合はおそらく、通常の湿疹以外の病気かどうかを知りたくて質問されているのだと思います。こわい皮膚病といえば皮膚癌ですが、皮膚癌については以前、この講座でお話していますので、今回は膠原病の皮膚症状を示し、それによく似た鑑別を要する皮膚疾患についてもお話しします。

全身性エリテマトーデス(SLE)

蝶型紅斑と呼ばれる蝶に似た発赤が顔に出現します。手には、しもやけに似た皮膚症状が出現します。皮膚症状以外に、発熱や関節痛も伴います。発熱の原因がよくわからない不明熱の中には SLE も鑑別を要する疾患の一つとして挙げられます。しもやけ様の皮膚症状が夏になってもよくなる場合は SLE の可能性があるため検査が必要です。初期のうちに治療を開始する必要があり、進行すると腎機能障害なども出現します。

シェーグレン症候群

顔面に環状紅斑が出現します。乾燥症状が特徴的で、ドライスキン、ドライアイ、ドライマウスといった症状を伴います。涙や唾液が出にくくなり、クッキーを食べてもいつまでも口の中でパサパサしている(クッキー徴候)といった症状のため食事がしにくくなります。

皮膚筋炎

上まぶたが腫れます(ヘリオトロプ疹)。手指背に庭の敷石状の紅斑(ゴットロン徴候)が出現します。筋肉痛と筋力の低下を伴いますので、服を着にくい、いすから立ち上がりにくい等といった症状がみられます。内臓悪性腫瘍を伴うことも多いので、検査が必要です。

強皮症

手足の皮膚が白く冷たくなります(レイノー現象)。次いで皮膚が硬くなり弾力性が無くなります。進行すると、逆流性食道炎、肺線維症、腎硬化症などを伴うようになります。

ベーチェット病

難治性の口内炎(口腔内アフタ)をはじめとして多彩な皮膚症状が出現します。皮膚以外にも眼症状、消化器症状、神経症状を伴うことがあります。